

# 平成15年度教育課程実施状況調査 教科別分析と改善点 (小学校・社会)

## 1. 今回の調査結果の特色

### (1) 調査結果の概要

#### 【ペーパーテスト調査】

< 第5学年 >

前回と同一問題のうち、複数の統計資料を関連付けて答える問題など、前回調査で指導の改善が求められた点において、前回の通過率を上回った。

「我が国の農業や水産業」のうち、主な食料生産物の分布では、出題したすべての問題の通過率が設定通過率と同程度以上であったが、統計資料や分布図を読み取ったり相互に関連付けたりする問題などで前回の通過率を下回った。

「我が国の通信などの産業」や「我が国の国土の様子」のうち「公害と国民生活」、「森林資源の働き」では、出題したすべての問題の通過率が設定通過率と同程度以上であった。

「我が国の工業」では、工業地域の分布などに関する問題で、前回の通過率を上回った。

「我が国の国土の様子」においては、国土を構成する島、都道府県の名称と位置などに関する理解や知識の定着が不十分だった。

< 第6学年 >

「我が国の歴史」や「国際理解」では、多くの問題で前回の通過率を上回った。

「我が国の政治」では、国会の働き、選挙権、選挙の意義を問う問題で前回の通過率を下回った。

「我が国の政治の働き」や、「我が国の歴史」のうち織田・豊臣の天下統一などでは、出題したすべての問題の通過率が設定通過率と同程度以上であった。

「我が国の歴史」のうち、特に江戸時代以降に関する歴史的事象の理解が不十分な例がみられた。

文化や学問と人物の業績に関する問題をみると、人物名は挙げられるが、その業績の理解が不十分だった。

#### 【質問紙調査】

児童質問紙調査では、「社会科の勉強が好きだ」「社会科の勉強は大切だ」「社会科の勉強をすれば、私のふだんの生活や社会に役立つ」など、社会科に対する肯定的な見方が、前回調査時を上回ったが、「社会科の勉強が好きだ」と感じている児童の割合は十分ではない。

教師質問紙調査では、前回に比べ、コンピュータや学校図書館を活用している教師の割合が増えたが、観察や調査・見学、体験を取り入れた授業や地域にある施設を活用した授業を行っている教師の割合が減少した。

児童質問紙調査と教師質問紙調査では、「各種の工業生産と工業地域の分布」と「国土の位置、地形や気候のようす」について、子どもは「よく分かった」がより高い割合を示したのに対し、教師は「児童にとって理解しにくい」が高い割合を示し、教師と子どもの意識にずれが見られた。

## (2) ペーパーテスト調査結果の主な特色

### ① 過去同一問題についての分析

前回調査（平成13年度調査）と同一の問題の通過率を比較すると、第5学年、第6学年ともに、前回は有意に上回る問題数が有意に下回る問題数より多い。各学年の状況は以下のとおり。

	全 問題数	同一 問題数	前回は有意に上回 るもの	前回と有意に差が ないもの	前回は有意に下回 るもの
5年	84	19	14<73.7%>	2<10.5%>	3<15.8%>
6年	81	21	10<47.6%>	8<38.1%>	3<14.3%>
計	165	40	24<60.0%>	10<25.0%>	6<15.0%>

#### 【第5学年】

- 前回は下回る3問は、すべて「我が国の農業や水産業」に関する問題であり、内訳は、統計資料や分布図を読み取ったり相互に関連付けたりする問題2問と野菜の生産地の調べ方を問う問題であった。
- 前回調査で指導の改善の必要性が認められた問題では、複数の統計資料を関連付けて解答する問題 [B3](2)], 地図帳を活用して地名を検索する問題 [B9](1)(2)] など、多くが前回の通過率を上回った。

#### 【第6学年】

- 「我が国の歴史」「国際理解」に関する問題の多くが、前回の通過率を上回った。
- 前回は下回る3問は、すべて「我が国の政治の働き」に関する問題であり、内訳は、国会の働き、選挙権、選挙の意義を問う問題 [C7](1)(2)(3)] であった。

### ② 内容、領域別の状況

内容・領域ごとに通過率と設定通過率を比較すると、第5学年、第6学年のすべての内容で、通過率が設定通過率を上回る又は同程度と考えられる問題数の合計が半数以上を占めている。各学年の内容・領域別の状況は以下のとおり。

		問題 数	上回ると考え られるもの	同程度と考え られるもの	下回ると考え られるもの
5 年	我が国の農業や水産業	24	10<41.7%>	11<45.8%>	3<12.5%>
	我が国の工業	24	13<54.1%>	7<29.2%>	4<16.7%>
	我が国の通信などの産業	12	10<83.3%>	2<16.7%>	0<0%>
	我が国の国土の様子	24	10<41.7%>	8<33.3%>	6<25.0%>
	計	84	43<51.2%>	28<33.3%>	13<15.5%>
6 年	我が国の歴史	59	25<42.4%>	15<25.4%>	19<32.2%>
	我が国の政治	12	7<58.3%>	5<41.7%>	0<0%>
	国際理解	10	4<40.0%>	5<50.0%>	1<10.0%>
	計	81	36<44.4%>	25<30.9%>	20<24.6%>
合計		165	79<47.9%>	53<32.1%>	33<20.0%>

## 【第5学年】

### (1) 我が国の農業や水産業

- 「ア 様々な食料生産，食料の輸入」（4問中3問），「イ 主な食料生産物の分布」（8問中8問）や「ウ 土地利用の特色」（12問中10問）ともに，設定通過率と同程度以上の問題が大半を占めた。

### (2) 我が国の工業

- 「ア 工業製品と国民生活との関連」（3問中3問），「イ 各種の工業生産や工業地域の分布」（6問中5問），「ウ 従事している人々の工夫，貿易や運輸の働き」（15問中12問）ともに，設定通過率と同程度以上の問題が大半を占めた。
- ウに関連して，農業や水産業，工業の内容と関連付けて扱うように改善が図られた貿易の特色や運輸の働きに関する問題の多くが，設定通過率と同程度以上であった。しかし，石油の輸送手段と経路に関する問題では，2問ともに通過率が設定通過率を下回った。

### (3) 我が国の通信などの産業

- 「我が国の通信などの産業」のうち，「ア 放送，新聞，電信産業など」（7問中7問），「イ 従事している人々の工夫や努力」（5問中5問）[B7](1)(2)]ともに，すべての問題が設定通過率と同程度以上であった。

### (4) 我が国の国土の様子

- 「ア 国土の位置，地形や気候，人々の生活」（18問中12問），「公害と国民生活」（3問中3問），「森林資源の働き」（3問中3問）ともに，また地図帳の活用に関する問題においても，設定通過率と同程度以上の問題が大半を占めたが，第5学年の内容の中で，設定通過率を下回る問題の占める割合が最も高かった。
- 特に，アのうち，国土を構成する島の名前[B6](1)ア]，都道府県の構成に関する問題では，どちらも設定通過率を下回り，理解や知識の定着に不十分な状況が見られた。
- また，第4学年から移行統合した気候条件から見て特色ある地域の人々の生活に関する問題の多くが設定通過率と同程度以上であった。

## 【第6学年】

### (1) 我が国の歴史

- 「ア 農耕の始まり，大和朝廷の国土統一」（6問中6問）[A1](1)(2)(3)]，「イ 大陸文化の摂取，大化の改新，大仏造営，貴族の生活」（7問中6問），「ウ 源平の戦い，鎌倉幕府のはじまり，元との戦い，室町時代の新しい文化」（10問中7問），「エ 織田・豊臣の天下統一」（2問中2問），「ク 日華事変，第二次世界大戦，日本国憲法の制定，オリンピックの開催」（6問中6問）などでは，設定通過率と同程度以上の問題が大半を占めた。
- 一方，「オ 江戸幕府の始まり，大名行列，鎖国，歌舞伎や浮世絵，国学や蘭学」（13問中6問），「カ 黒船の来航，明治維新，文明開化など」（9問中5問），「キ 大日本帝国憲法の発布，日清・日露の戦争，条約改正，科学の発展など」（6問中3問）など，江戸時代と明治時代に関する問題では，設定通過率を下回る問題が多く，「我が国の歴史」全体の中で設定通過率を下回る問題数の合計19問のうちの約7割を占めている。特に，大日本帝国憲法についての理解を問う問題では，通過率が設定通過率を下回った[B7](2)]。
- 学習指導要領の改訂で選択的扱いが可能となった室町時代の文化や江戸時代の文化と学問に関する問題では，人物名は挙げられるがその業績の理解が不十分な状況が見

られた。例えば、水墨画や肖像画の資料から雪舟を選ぶ問題では通過率が9割を越えたが、水墨画の用語記述の問題では7割弱であった〔B③(1)(2)〕

## (2) 我が国の政治

「我が国の政治の働き」のうち、「ア 地方公共団体や国の政治の働き」(5問中5問)、「イ 日本国憲法」(7問中7問)では、すべての問題が設定通過率と同程度以上であった。

## (3) 国際理解

「ア 経済や文化などの面をつなぐりの深い国々」(3問中2問)、「イ 国際交流や国際協力、国際連合」(7問中7問)では、設定通過率と同程度以上の問題が大半を占めた。

学習指導要領の改訂で新たに付加された「オリンピックの開催」に関する全ての問題、事例の取り上げ方などが改善された「国際理解」に関する問題の多くが、設定通過率と同程度以上であった。

### 評価の観点別に見た状況

評価の観点別に通過率と設定通過率を比較すると、通過率が設定通過率を上回る又は同程度と考えられる問題数の合計が、第5学年、第6学年ともに、すべての観点で半数以上を占めている。各学年の観点別の状況は以下のとおり。

		問題数	上回ると考えられるもの	同程度と考えられるもの	下回ると考えられるもの
5 年	社会的事象への関心・意欲・態度	7	5 <71.4%>	2 <28.6%>	0 < 0%>
	社会的な思考・判断	17	10 <58.8%>	4 <23.5%>	3 <17.7%>
	観察・資料活用の技能・表現	30	14 <46.7%>	15 <50.0%>	1 < 3.3%>
	社会的事象についての知識・理解	37	19 <51.4%>	9 <24.3%>	9 <24.3%>
6 年	社会的事象への関心・意欲・態度	16	8 <50.0%>	7 <43.8%>	1 < 6.3%>
	社会的な思考・判断	14	2 <14.3%>	7 <50.0%>	5 <35.7%>
	観察・資料活用の技能・表現	16	8 <50.0%>	7 <43.8%>	1 < 6.3%>
	社会的事象についての知識・理解	51	26 <51.0%>	11 <21.6%>	14 <27.4%>

第5学年及び第6学年ともに、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の観点ごとにみても、設定通過率と同程度以上の問題が大半を占めたが、設定通過率を下回る問題の割合を見ると「知識・理解」と「思考・判断」の観点に他比べて高かった。〔5 B②(2)、6 B④(3)〕

第5学年では、気候に適應した家のつくりの共通点や自動車生産の工夫の共通点を考える問題、漁獲量の変化と県の取組との関連を考える問題など、社会的事象の共通点や相互の関連を考える問題で、設定通過率を下回る状況がみられた。

第6学年の「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」の観点については、前回調査時とほぼ同じ傾向であった。

## (3) 質問紙調査の結果の概要

### 児童質問紙調査

第5学年、第6学年ともに、「社会科の勉強が好きだ」「社会科の勉強は大切だ」「社会科の勉強をすれば、私のふだんの生活や社会に出て役立つ」など、社会科に対する肯定的な見方が、前回調査時を上回っている。しかし、「社会科の勉強が好きだ」と感じている児童の割合は十分ではない。

第5学年、第6学年ともに、「社会科の勉強が好きだ」「社会科の勉強は大切だ」「社会科の勉強をすれば、私のふだんの生活や社会に出て役立つ」など、社会科に対する肯定的な見方が、前回調査時を上回っている。しかし、「社会科の勉強が好きだ」と感じている児童の割合は十分ではない。

「ふだんの生活や社会に出て役に立つ」という設問に対して、第5学年では、すべての内容について、「役に立つと思った」と肯定的な回答をした割合が、「思わなかった」と否定的に回答した割合を上回っている。一方、第6学年では、「我が国の歴史」に関する内容の中に、否定的な回答の方が肯定的な回答を上回るものも見られた。「我が国の歴史」のうち近現代史に関する内容、「政治の働き」と「国際理解」に関するすべての内容については、肯定的な回答をした割合が否定的に回答した割合を上回っている。

### 教師質問紙調査

第5学年、第6学年ともに、前回調査時に比べ、コンピュータや学校図書館を活用した授業を「行っている方だ」「どちらかといえば行っている方だ」と回答した教師の割合が増えている。一方、観察や調査・見学、体験を取り入れた授業や地域にある施設を活用した授業を「行っている方だ」「どちらかといえば行っている方だ」と回答した教師の割合が減っている。

授業の形態の工夫に関する質問に対して、「行っている方だ」「どちらかといえば行っている方だ」と肯定的に回答した教師の割合が他と比べて高かったものは、「調べたことを発表させる活動を取り入れた授業」(第5学年、第6学年ともに約8割)であった。また、学習指導要領の改訂で工夫改善を求めている問題解決的な学習、コンピュータや学校図書館の活用などについては、肯定的な回答をした教師の割合が、「課題解決的な学習を取り入れた授業」では第5学年 約7割、第6学年約6割5分、「学校図書館を活用した授業」では第5学年約6割5分、第6学年約7割、「コンピュータを活用した授業」では第5学年約6割、第6学年約5割5分であり、いずれも5割を上回った。同じく学習指導要領の改訂で工夫改善を求めている体験的な学習や地域の教育施設を活用した授業などについては、「観察や調査・見学、体験を取り入れた授業」が第5学年約5割5分、第6学年約4割5分、「博物館や郷土資料館等の地域にある施設を活用した授業」では、第5学年約2割、第6学年約3割であり、5割を大きく下回る状況が一部に見られた。

### 児童質問紙調査と教師質問紙調査との比較

第5学年では、「各種の工業生産と工業地域の分布」と「国土の位置、地形や気候のようす」の各内容について、児童の回答では「よく分かった」の方が「よく分からなかった」より高い割合を示しているが、教師の回答では「児童にとって理解しにくい」の方が「児童にとって理解しやすい」より高い割合を示しており、教師と子どもの意識にずれが見られた。

第6学年では、「室町の文化」及び「江戸の文化と学問」については、教師は「児童にとって理解しやすい」「児童が興味をもちやすい」と肯定的に回答した教師の割合が、「児童にとって理解しにくい」「児童が興味をもちにくい」と回答した教師の割合を下回っている。一方、児童質問紙では、上記の二つの項目では、「よく分かった」「好きだった」と肯定的に回答した児童の割合が、「よく分からなかった」「きらいだった」と否定的に回答した児童の割合を上回り、児童と教師の間で意識の違いが見られる。

## **2. 今回の調査結果を踏まえた指導上の改善点**

### **国土を構成する島，都道府県の名称と位置に関する指導の充実（第5学年）**

ペーパーテスト調査の結果からは「我が国の国土の様子」における国土の構成，地形や気候の概要，都道府県の構成に関する問題において設定通過率を下回る状況がみられた。特に，国土を構成する島，都道府県の名称と位置に関する理解や知識の定着に不十分な面が見られる。

これらの結果を踏まえると，児童一人一人がこれまで以上に地図帳の活用を図るとともに，白地図にまとめるなどの作業的な活動を工夫し，国土の構成，都道府県の構成などに対する理解を深め，知識の定着を図る指導の充実が求められる。

### **江戸時代以後の歴史学習を一層重視し，学習指導要領に示す人物を歴史的事象と関連付けて確実に指導し，理解を深める工夫（第6学年）**

ペーパーテスト調査の結果からは，江戸時代以降の歴史的事象や人物の働き，室町時代や江戸時代の文化に関する内容の理解などについて不十分な例が見られる。その原因として，歴史的事象の意味を人物の働きや代表的な文化遺産と結び付けて考え，理解を深める指導と知識の定着が必ずしも十分ではなかった点があると思われる。

これらの結果を踏まえると，江戸時代以降の歴史学習や文化に関する学習においては，これまでどおり歴史的事象を厳選して取り上げ，それと関連の深い人物，文化遺産を重点的に扱うこととし，その際，学習指導要領に例示された人物については，歴史的事象と関連付けて確実に扱うように留意する必要がある。

### **統計資料や分布図を確実に読み取ったり，複数の資料を相互に関連付けて活用したりする力を育てる指導の改善・充実（第5学年）**

ペーパーテスト調査の結果からは，統計資料や分布図などの基礎的資料の効果的な活用，食料生産や工業生産などに従事する人々の工夫の意味や貿易，運輸の働きを考え，理解を深める学習などが必ずしも十分に行われていない状況が見られる。

これらの結果を踏まえると，「我が国の農業や水産業」及び「我が国の工業」に関する学習において，身に付けるべき基礎的・基本的な事項や取り上げる基礎的資料を一層明確にした指導計画への見直し・改善を図る必要がある。そして，その上で，統計資料や分布図を確実に読み取ったり，複数の資料を相互に関連付けて活用したりする力の育成を一層重視し，調べたことから考え，表現する力を育て，我が国の産業に関する理解を一層深めていくようにする。

### **年表や人物の業績に関する資料を一層効果的に活用した指導の改善・充実（第6学年）**

ペーパーテスト調査の結果からは，明治以降の歴史の問題で，人物の業績を資料と関連付けたり，歴史的事象を年表と関連付けたりする「思考・判断」の問題において設定通過率を下回る状況がみられた。その原因としては，歴史学習において年表や歴史上の人物に関する資料が必ずしも効果的に活用されていなかった点があると思われる。

これらの結果を踏まえると，歴史学習において，歴史的事象を年表に位置づけ前後の歴史的事象との関連を考えたり，それらと関係の深い人物の肖像画や人物年表，業績に関する文章資料などを効果的に活用し，歴史的事象と関連付けて人物の働きを考え，理解を深めたりする指導の改善・充実が必要である。

### **社会科好きの子どもが育つ，楽しくわかる授業への改善**

質問紙調査の結果からは，社会科に対する肯定的な見方が前回調査時をわずかに上回ったが，「社会科の勉強が好きだ」と感じている児童の割合は十分ではない。また，授業の形態

を見ると、前回調査時より工夫改善が見られるものの、体験的な学習や問題解決的な学習については、必ずしも十分とはいえない状況がうかがえる。

これらの結果を踏まえると、社会科好きの子どもを一人でも多く増やしていくことが大切であり、そのためには、多様な活動を効果的に取り入れ、児童が自ら主体的に問題を追究・解決し、楽しくわかる授業への改善が必要である。